

ワンちゃんも登った!

1974(昭和49)年正月 八ヶ岳写真山行記





1974 (昭和 49)年の1月2日から4日にかけて、八ヶ岳主峰を歩いた記録を紹介します。ただ山行の記録といえるものは、赤鉛筆でルートが記された5万分の1地形図[※]と、36枚撮り白黒フィルム6本に収められた202枚の写真だけで、書き留めておいたはずのメモのないのが残念です。

それでも36年前の山行スタイルや当日中の雪のつき方など、今でも参考にさせていただける所は多いと思います。

そして何よりも「阿弥陀岳山頂で気持ち良さそうに寝そべるワンちゃん」の写真(表紙)。正直なところ、このワンちゃんをお見せしたくて発刊を思いついたと言ってもいいくらいです。

いったいどこからどうして登ってきたのでしょうか。

[※]上の地図は、国土地理院発行5万分の1地形図(八ヶ岳：昭和43年)を使用しました



1 日目

美濃戸口のバス終点にあったロッジ2階からの風景。
カメラにフィルムを入れた1枚目の写真。

共通写真データ：

ニコマート FTN / 50mmF1.4

ネオバン SS・F・トライ X (自家現像)

フィルムスキャニング EPSON・GT9800F / 1200dpi

(6コマスリーブのままフラットベッドスキャン)

※写真はすべて白黒です。202枚の中から47点を選びました。





「赤岳山荘」の文字が見えます。中央の山は美濃戸中山。
1974年当時は、ザックといえば黄土色のキスリングがまだ主流。
新宿や上野の駅の改札を通る時に、横向きに歩かねばならないので、
「カニ族」と呼ばれました。

写真には一人だけアタッシュを背負っている人がいます。
登山スタイルがファッショナブルになるのはこれから数年後です。



八ガ岳やアルプス方面への山行には、新宿発23時55分の中央本線長野行き普通列車を使うのがいつものことでした。茅野から朝一番のバスで美濃戸口まで入り、初日は行者小屋で一泊することにして、昼を過ぎ夕方近くまで周辺をワンデリングしていました。

上の写真は中岳への途中から硫黄岳方面を写したものです。左下に行者小屋が見えています。その周辺はテント場になっています。



上：地藏尾根途中
右上：行者小屋付近
右：中岳道・文三郎道分岐





2日目

地藏の頭付近から
上：赤岳。中央が赤岳石室
（現在の赤岳展望荘）
右：中岳と阿弥陀岳
右奥は御嶽山



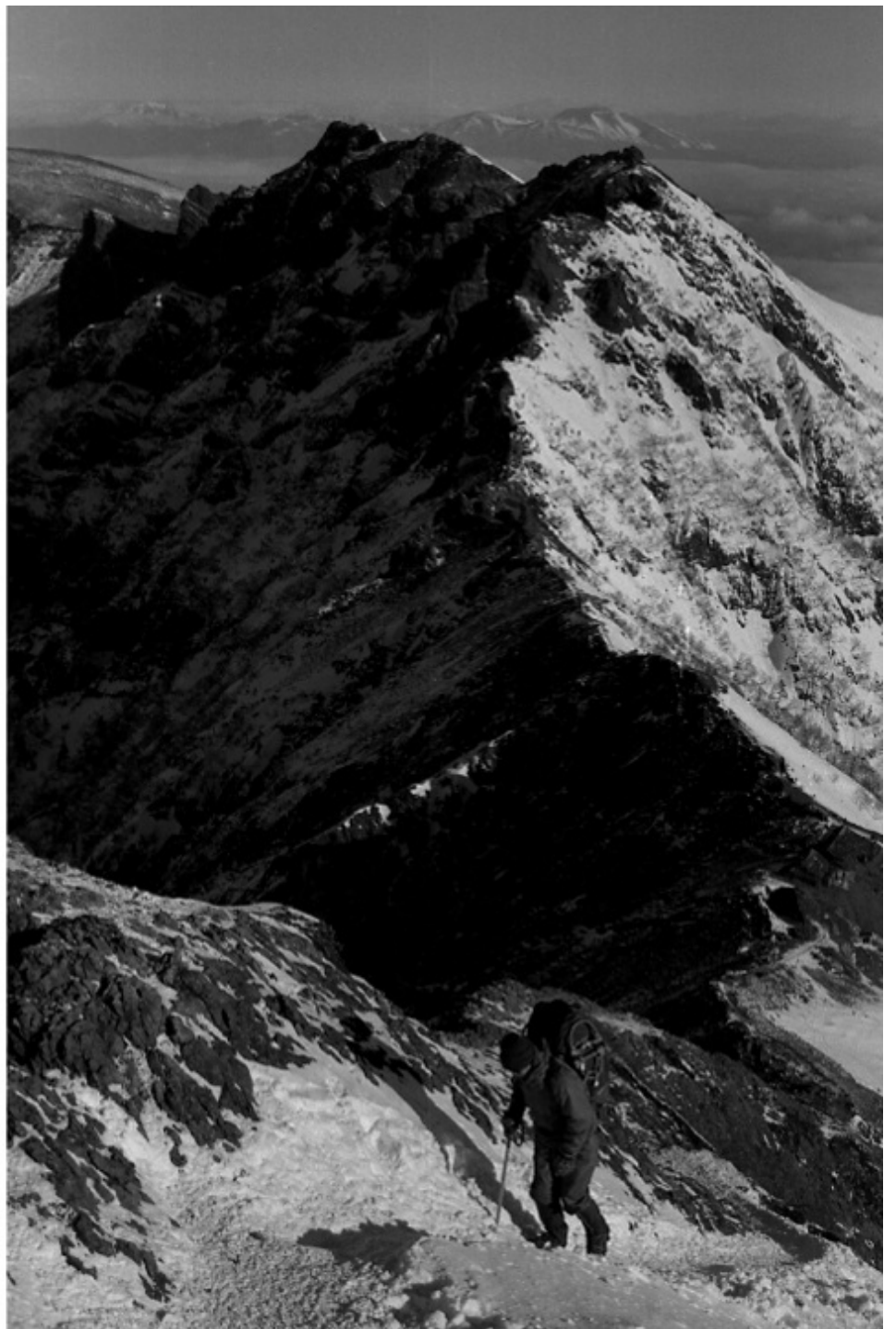


◀
石室からの赤岳



◀
石室から
野辺山方面の云海

▶
赤岳北側肩からの横岳
稜線の一番右に
赤岳石室が見えます





赤岳山頂からの眺めです。最初に書いた通り行動記録が無いのですが登頂時間はおよそ11時と推定できました。

今回は「カシミール」というソフトウェアの3D立体視機能「カシバード」を使って、右ページの権現岳の視角を再現し、1974年1月3日正午前の光の状態をシミュレートしてみました。10時では稜線の西と東のコントラストが強く、12時では権現岳の北面(こちら側)は陰に入ってしまうため、所要時間も考えて11時を割り出しました。

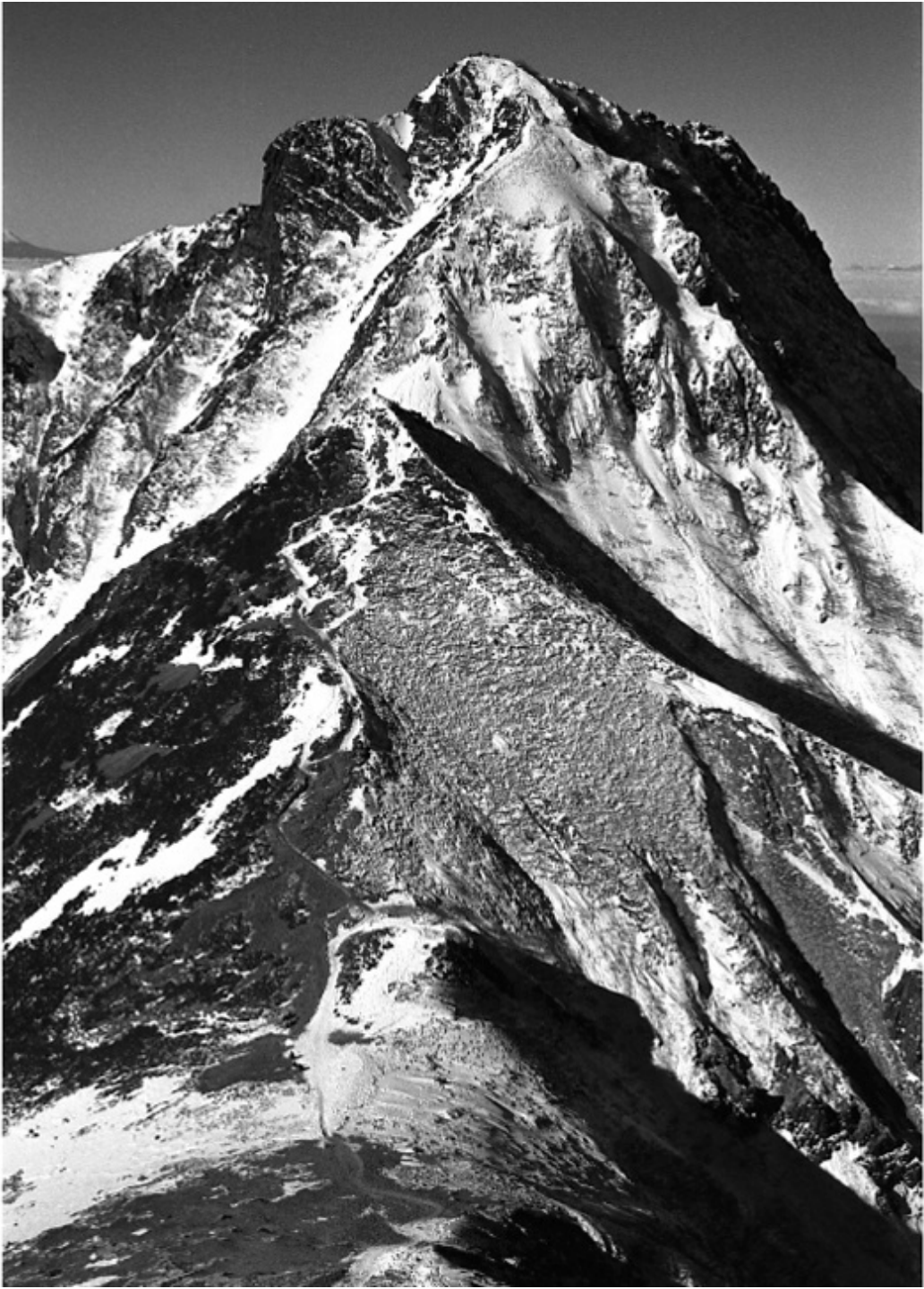
▼赤岳山頂からの県界尾根



▲権現岳への稜線と白根三山



赤岳山頂から北方向。重なってしまってわかりにくいですが、横岳と大同心、それに硫黄岳が見えています。遠景は浅間山です。



次に目指す阿弥陀岳・中岳



▲文三郎道分岐からの中岳



◀中岳・阿弥陀岳のコルにて



中岳からの阿弥陀岳



▲阿弥陀岳山頂。遠景は北アルプス

ここで表紙のワンちゃんに出会ってしまいました。今でこそたった2枚でなく、もっと写しておくべきだったと後悔しています。

それにしてもよく登って来たと思います。冬山装備どころか何も身につけてないのですから……



★どなたかこのワンちゃんについてご存知の方がおられましたら、ぜひコメントをお寄せください★

(恐れ入りますがコメントにはパブーへのログインが必要になります)

よろしければメールも歓迎いたします (アキテル) thirota@kenyukan.biz

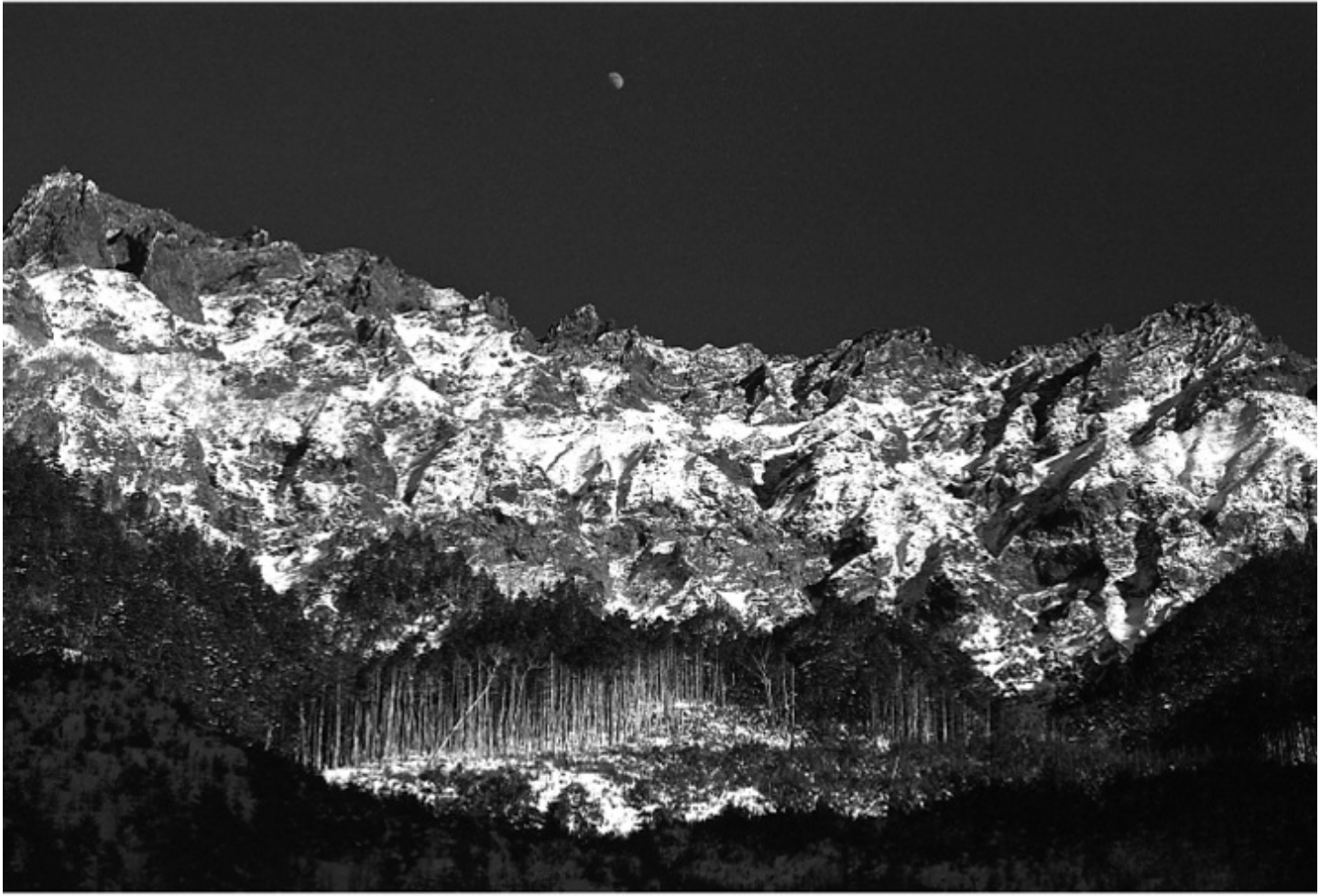




阿弥陀岳からの横岳



阿弥陀岳からの赤岳



赤岳鉱泉から夕陽の横岳

夜の赤岳鉱泉入口です。

看板のかかっている左側が玄関で、右側は「立入禁止」となっていますからスタッフの通用口でしょう。

真ん中の貼紙類部分は、水場と建物周辺の見取図、公衆電話の表示、「高山植物を取らないで下さい」などの注意書きのようです（できるだけ解像度を上げましたが、細かい文字までは判別できませんでした）。

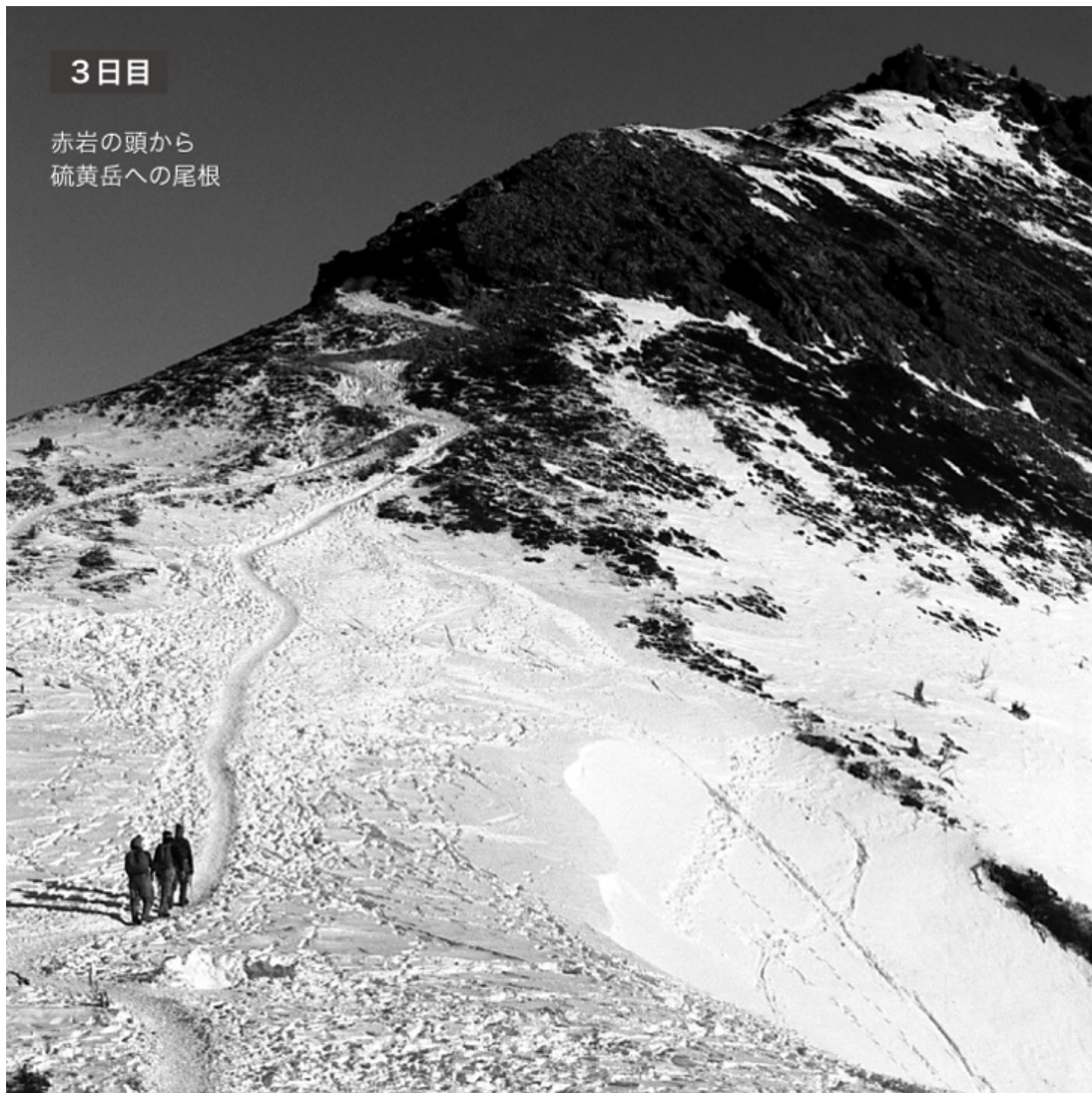
一番下は裏口だったのでしょうか。ザックとピッケルが置きっ放しなのに外には誰もいる様子がありません。

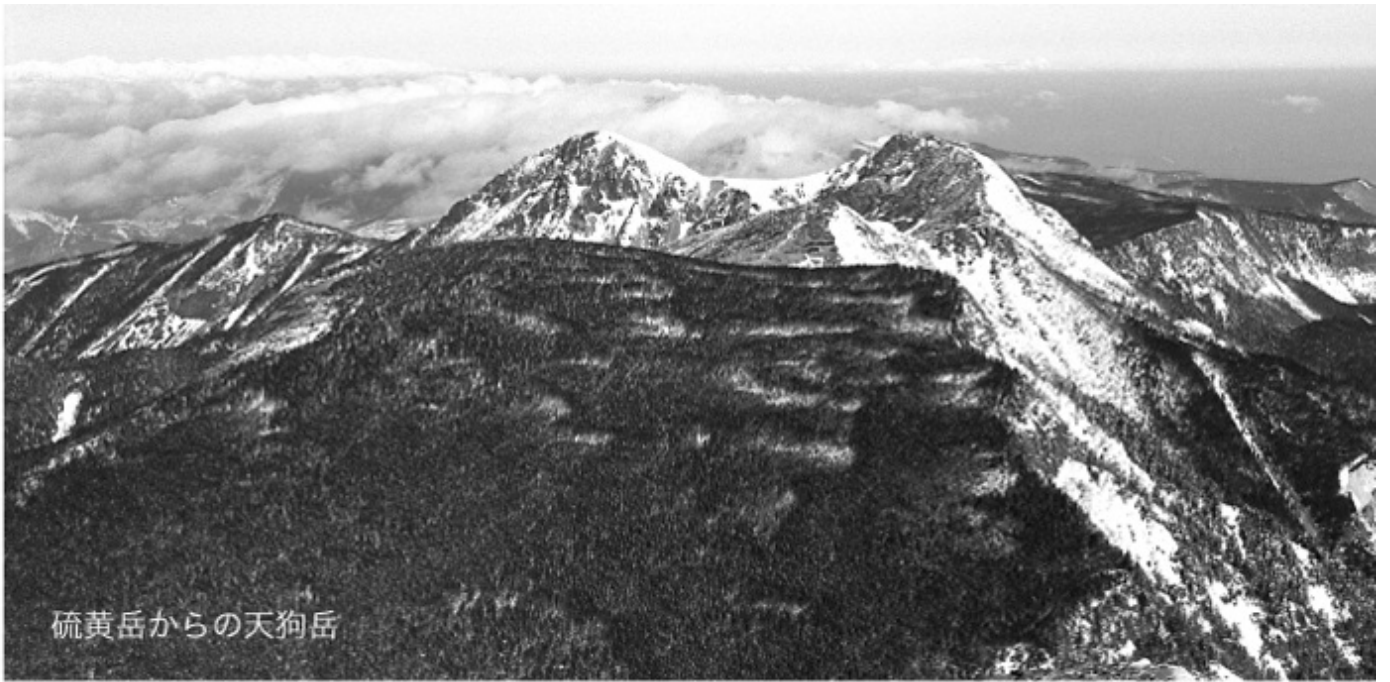
雪は少ないのですが、軒のつららで寒さがうかがえます。



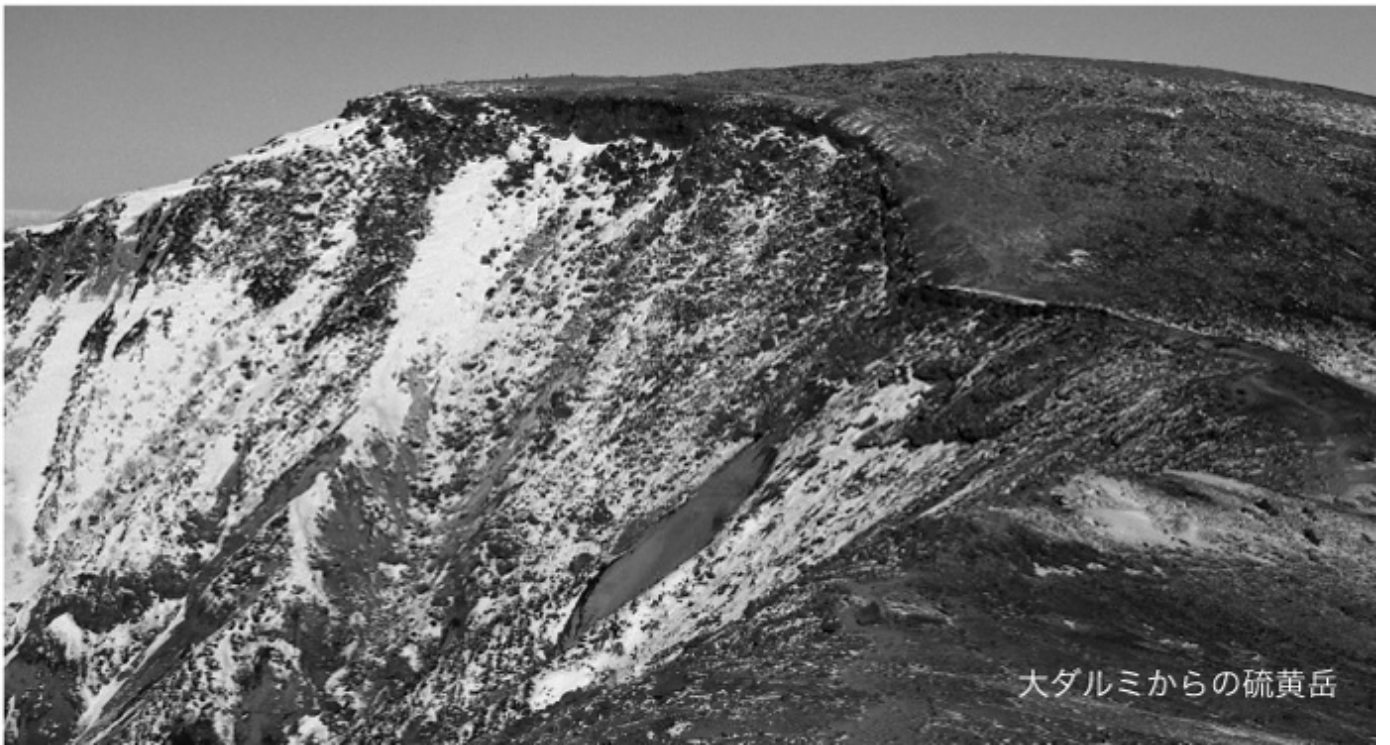
3日目

赤岩の頭から
硫黄岳への尾根





硫黄岳からの天狗岳



大ダルミからの硫黄岳

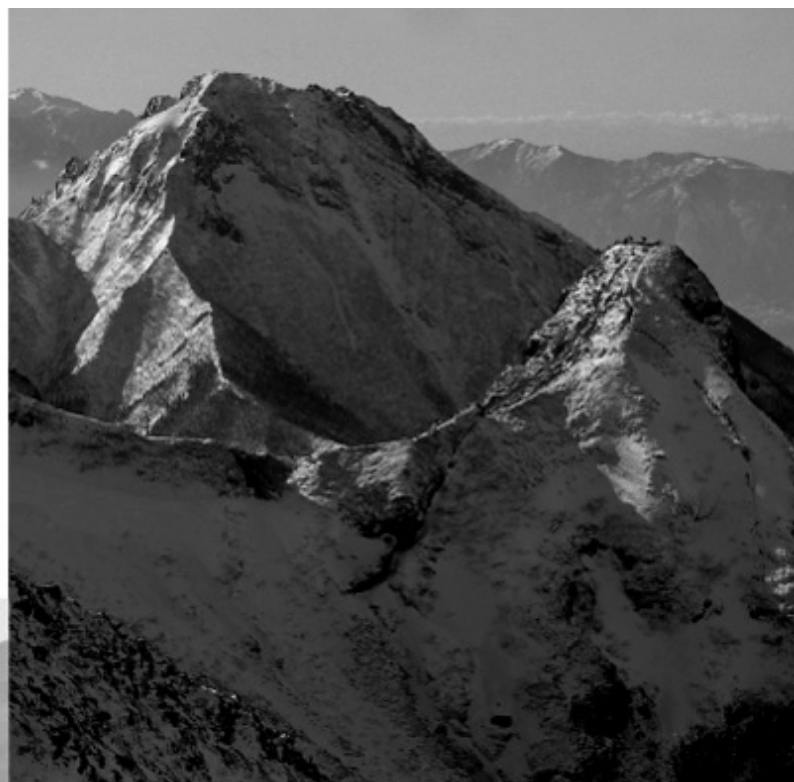


▲大ダルミから台座の頭



◀硫黄岳石室の屋根

台座の頭付近から
大同心と阿弥陀岳▶
▼海の口別荘地方面



▲横岳への尾根道



台座の頭付近から横岳東側

奥の院から二十三夜峰まで横岳
通過中の写真は残っていません。

それまでカメラは首から下げて
いたのですが、横岳ではザックに
しまうしかなかったようです。





カニの横ばい付近
から大同心と
茅野方面



最後の岩峰を捲いてからようやくカメラを出し、横岳方面を振り返りました。雪が少なく悪所こそ無かったものの、経験不足の身には、とても撮影をする余裕はありませんでした。

地藏尾根の頭からは、行者小屋、中山乗越を経てメインのザックを預けた赤岳鉱泉へ下山。昨日のワンちゃんには、帰る途中やどちらの小屋の周辺でも出会えなかったのが心残りです。





当時の新聞には「カラカラ東京54日目―史上最長記録」という記事が載っています。西高東低なのですが等圧線の間隔がゆるんで、山行中の1974(昭和49)年正月三ヶ日は北海道を除き全国的に晴れマーク。

こんな晴天に恵まれたので、上の写真のようなサブザックに詰めた荷物だけで登ってこれたんですね。でも足回りだけはしっかり10本爪アイゼンとロングスパッツで締めました。

八ガ岳に限らずどんな山でも、天候の急変やアクシデントに備えて、ピバークに耐えられるだけの装備を常に携行するのが普通です。

この記録は極まれな天候中の例であることを書き添えておきます。



山行当時 (23歳)

発行者について

1951 (昭和26) 年横浜生まれ
明治学院大学でワンダーフォーゲルを経験
東京総合写真専門学校在学中に
新宿のカメラ量販店に勤務 写専卒業後、
カメラ店企画室を経てデザイン書出版社勤務

—ワンちゃんも登った—

1974 年正月 八ガ岳写真山行記

初版 5 訂発行 : 2010年10月31日
発行者 : アキテル

e-mail : t-hirota@kenyukan.biz

既刊紹介



さゝめく花

—南房総の春—

ISSUU版 <http://issuu.com/6398/docs/whisperingflowers>

4月の南房総で、あちらこちらに咲き始めた花たちの
静かなささやきを集めた写真集です。（無料）



モンスター

—横浜根岸競馬場跡—

PUBOO版 <http://p.booklog.jp/book/11673>

[写真] カテゴリーにあります（無料）

ISSUU版 <http://issuu.com/6398/docs/monster>

横浜の根岸森林公園に行くと出会えます。

2008年6月14日に催された、米海軍根岸ベースの
お祭り会場から撮影しました。（無料）

更新履歴

2010.10.31 初版 5 訂発行 P.16 ワンちゃんについてのコメントのお願い

2010.10.28 初版 4 訂発行 P.6 ×中山乗越 → ○中岳への途中
×赤岳鉱泉 → ○行者小屋

2010.10.12 初版 3 訂発行 P.11 ×真教寺尾根 → ○県界尾根

2010.10.08 初版 2 訂発行 Puboo版は 2 訂版からです。